



会議レポート

社会システムと情報技術研究 ウィーク (WSSIT17) 開催報告 —ルスツで研究を語る 4 日間—

WSSIT とは

WSSIT (Workshop of Social System and Information Technology, 社会システムと情報技術研究ウィーク) は例年 3 月初旬に開催される合宿形式の研究会である。人間生活や社会システムと情報技術に関連した基礎的研究から応用研究に関する幅広い研究を対象としており、これまで下記の 5 研究会による連続開催体制で実施されてきた。

- 人工知能学会「知識ベースシステム研究会」
- 人工知能学会「社会における AI 研究会」
- 人工知能学会「データ指向構成マイニングとシミュレーション研究会」
- 本会「知能システム研究会」
- 電子情報通信学会「人工知能と知識処理研究会」

WSSIT で扱われてきたテーマとして、人工知能、社会・経済システムのモデル化・データマイニング・シミュレーション・ネットワーク分析、複雑系の解明と利用、環境・福祉・金融・デジタルコンテンツなどが挙げられる。例年、開催プログラムの中に討論のための時間が余裕を持って設定されており、さまざまな事例を扱う研究者と深く交流することができる。

本年の WSSIT17 は北海道留寿都村のルスツリゾートで 3 月 2 日から 3 月 5 日にかけて開催され、上記の 5 研究会に本会から「行動変容と社会システム研究会」を加えた 6 研究会による開催体制となった。参加者数は例年の 1.5 倍ほどの 67 名となり、43 件の発表が行われた。

ルスツリゾートホテルのコンベンションホール一部屋を発表会場として、4 日間で 8 セッションが連続して開催された。研究会の開催会場の写真を図-1 に掲載する。発表 1 件につき 20 分ほどの時間が割り当てられたほか、セッションが開催されていない時間帯にも自由討論のために発表会場が開放され、多数の参加者による活発な討論が行われた。2 日目に懇親会が行われ、3 日目の夕食後には深夜までセッション会場が自由討論のために開放



図-1 研究会の様子

され、参加者はビールなどを片手に熱い討論を行った。

社会システムに関する幅広い研究発表

研究会の趣旨の通り、社会システムと情報技術に関して、基礎的研究から応用研究まで幅広い発表が行われた。たとえば、交通システムに関する研究としては、スムーズな通行を可能とするための信号制御の方法、効率的なカーシェアリングを実現するための経路決定、カーシェアリングを円滑に行えるようにするために利用者に協力を求める手段としてのゲーミフィケーションの研究などが見られた。このほかにも、経済・社会システムのモデル化や知識ベースを用いた情報検索など、幅広い研究発表が行われた。

今回の研究会では深層学習に関する研究が多く紹介された。物体認識、音声生成、強化学習などの一般的な課題に対する研究の発表だけでなく、不動産物件の紹介画像を深層学習により分類・評価する試みや、深層学習を用いて降雪の有無を画像から判定することで、寒冷地における融雪を効率的に制御する方法の提案など、応用に近い発表も多かった。このことから、社会システムの改善のために深層学習を応用するという観点からは、アイデア次第で大きな可能性が残されていると感じられた。

来年の開催に向けて

来年 2018 年の WSSIT は例年と同様に 3 月初旬に北海道で開催される予定である。WSSIT は複数研究会が共同で開催する体制となっているため、本年は参加手続きにおいて若干の混乱が生じてしまった。参加者が講演を申し込む際には、WSSIT の実行委員会で発表申込を受け付けたのちに、各発表を研究会に割り振り、全体のプログラムを作成する。このとき、研究会ごとに当日の予稿集の扱いや参加費の支払いなどが異なることについて、参加者に対する周知が不足していたためだ。WSSIT の特色を活かしながらスムーズな運営を行うため、来年はこうした点に留意して実施したい。

(横山想一郎／北海道大学)